

## VR 体験で防災まちづくり

本日 17 日と明日の 2 日間、杉並区役所では耐震や防災に関するパネル展示や無料相談会を行う「防災まちづくりフェア」を開催しています。1 月 17 日は、22 年前に阪神淡路大震災が発生した日で、家屋の倒壊とその後の火災で多くの尊い命が失われました。この震災を教訓に、地震に強いまちづくりを推進していくことを目的に、毎年「防災まちづくりフェア」を開催してきました。今回は、熊本地震で大きな被害を受けた益城町の様子を VR（疑似）体験するコーナーが設けられ、来場者は地震の怖さを映像で実感していました。

平成 7 年 1 月 17 日早朝、阪神地方で起きた大地震は、平穏な日々の暮らしを一変させることになりました。木造建築物はおろか、鉄筋コンクリート造のビルや学校、病院、そして高速道路までもが倒壊し、大規模な火災が起きる様は、国民の多くが目を疑う光景となりました。また、この震災によって、改めて地震に備える重要性に気づかされました。

こうしたことから、阪神淡路大震災を契機に、耐震改修促進法の制定や建築基準法の耐震基準の強化が行われました。また、6,434 名の死者の 8 割近くが、家屋や家具の倒壊による圧死や窒息死だったことから、家具の転倒防止対策や家屋の耐震化が大きくクローズアップされました。

「防災まちづくりフェア」は、阪神淡路大震災の翌年から発生日前後で開催しているもので、住宅メーカーや消防署、東京ガスなどの協力を得て、耐震化の相談や家具の転倒防止、耐震シェルター・耐震ベッドなどを紹介して、万が一に備えてもらうことを目的にしています。

今回のフェアでは、平成 28 年 4 月 14 日に発生した熊本地震の被災地の様子を VR 体験するコーナーが設けられました。VR 体験は、地震発生 2 ヶ月後の益城町で、ゴーグルを覗いて、上下左右の全方位を見ることが出来ます。ゴーグルを通して、通りの両側に倒壊した家屋が立ち並ぶ様子やマンション内部の大きく崩れ落ちた壁の様子など 2 通りの映像を紹介しています。来場者も、リアルな映像で地震被害の惨状を見たことで、「いつ起きるかわからない地震だからこそ、日頃から備える必要がありますね」と話していました。



### 【報道機関 問い合わせ先】

都市整備部耐震不燃化担当 電話 3 3 1 2 - 2 1 1 1 (内線 3 3 3 1)